



卷一
 目錄
 一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

陝 燕 嶺 丁 二 越 史

自然對燕

魯西亞本誌全書

陝 燕 嶺 丁 二 越 史

安政二乙卯歲新刻

利光仙庵校鑄

魯西亞牛痘全書

自然樓藏



東洋草書門外
漢字町二丁目
伊原屋
製本共見記

春



年譜

觀人集

嘉永三年上

章閣氏書室

日題為

利光德庵醫宗

日有朝川庵



牛痘全書序



仙庵利光大致。校刻馬場氏所譯之一書。題曰牛痘全書。以示于予。夫天花之行於我邦也尚矣。而古今嬰孩其不免幾如長平歷陽之厄。世醫以為造化之殺機。嬰孩之劫數。棄而不顧。愚民以

為鬼神所作。而懸符厭之。吁不亦痛乎。近者種人痘。雖少得拯之之術。然亦未為至矣。嘉永二年。蘭客始帶來牛痘苗。一醫種之其兒。又取其苗。傳之人。自人于人。以漸布各州。愈傳而愈平易。未聞有其死亡與復發者也。嘗聞西洋所說。

曰天行痘。其性最險惡。其死亡者。見三十於百。種人痘。其性稍平易。其死亡者。見一於五百。近所發明種牛痘。其性最平易。其死亡者。不見一於萬矣。誠不為虛語焉。雖然種牛痘之傳也。尚新矣。故信之者亦未為多矣。醫家有往。駁之。

牛痘全書 序 二 自然樓藏
者曰夫痘之險易。則本係於天賦。而非
技術之所能遷變也。蓋輕薄之徒。為非
常可喜之說。幻惑愚民。以希其利耳。且
其種牛痘。假令今日有輕易之喜。必得
令來日無復發之憂乎。是豈知道者之
言乎哉。亦偏見頑習。而其心不在仁也。

惟吾大致。則不然。人之有善。若已有之。
汲汲惟恐人不告以善道。且其意以為
博濟衆之道。莫如醫。噫愉快哉。斯書
之刻也。遂令天下之父母。無號泣于其
兒子天花也。余久辱大致之知。又慶後
世將蒙其休澤也。於是乎序而道之。嘉

永四年五月。秋田齊藤恭撰



皆川馨書



魚目西亞牛痘全書序

天地萬物之理。固無窮盡。人心之智愈出愈靈。故有千古聖賢所未發。而後人乃能發之者。若西洋窮理之學是也。

夫田澤生蜺。以療多血之病。牝牛發痘。以防天花之患。造物靈妙如此。是非有卓絕之見。孰能得知。至乾隆年。西人跋涉數萬里之外。迴旋五大洲之間。躬親

見之為要。故於天象地輿之學。尤為精核。而醫藥器械之屬。亦極奇盡巧。殆不可思議矣。蓋天花者。萬病之危險。而人間之一大厄也。及罹其難痘。良醫投匙。鬼

神失護。遂害其嬰。痛之父母。慘莫甚焉。古昔方天花之通行也。致傷損亡。殆若戰然。及至宋仁宗時。天姥仙娘。授鼻苗痘法。免其危患。然猶失十一於千百。未能

搽券而十全。世醫所知也。或云。至於種痘法行世。損亡者反夥。無他。一人種痘。傳之於十。傳之於百。至千萬而傳播不絕也。於是乎。英咭喇國人。創意行牛痘種法。

實千古發明。謂之靈妙神術可也。其法歐羅巴勿論。遠傳亞美利架及亞細亞等。就中滿清傳之。蓋四十有六年矣。至今無一損失。無一復發者。乃有引痘新法全

書。及種痘奇法等書。可以徵焉。此書原係魯西亞伯德琢勃尔觚鏤版。文化十年癸酉春。崎嶼譯官馬場氏。得之於松前。就原書親譯之。命曰遁花秘訣。予嘗於崎嶼得

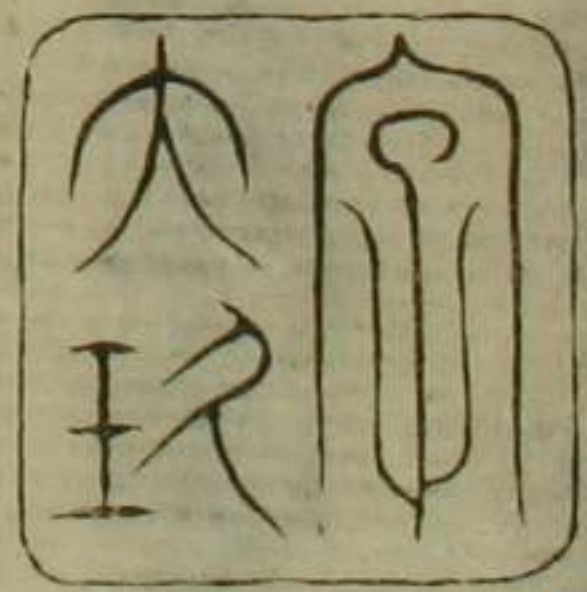
此書藏弄二十有餘年。方今我
邦得生痘苗。施之者日盛。月行。足
以一夜燈火。執此去讀之。慨然以為解
和蘭語固難。况於魯西亞。馬場
氏之譯也。覃思專精。以至於此。

自非英毅之次。孰得能之哉。
馬場氏有言。享和年間。和蘭
甲必丹。扁垣。歷道布。語予曰。近
今採牛痘苗。以栽種嬰孫。尤勝
於天花種痘。由是觀之。邦人識

牛痘說者以馬場氏為始。而譯魯西亞書者。馬場氏以前必不有之。馬場氏以後亦未聞有之也。此書全篇所說。叮寧及反覆。無不至今其法盛行於世。故予有

感予此。遂改顏曰魯西亞牛痘全書。附諸剗刷氏。徧詔同好。庶幾令馬場氏之功不_レ就湮滅。嘉永三年庚戌首夏月。三河臣囊家士利光瓊識於江戶

本石街自然樓小窗下



鼎齋生方言書

魯西亞牛痘全書凡例

一譯和蘭書之難。人皆知之。豈待余言乎。此書原係魯西亞鏤版。而馬場氏所譯。雖文辭拙樸。條理井然。一語一譯。分毫不謬。唯恐若人名地名。以國字對譯者。有傳寫之誤焉。欲訂正之。無可考據。假令得原書。魯西亞語套。非我輩所得讀也。今姑據本譯。不敢改。博雅君子察之。

一往。有音訛相近而誤者。易作安。能作良。板作盤。

蓋作覆。託作宅之類是也。又有假字失格者。試夕
リ作試ノリ。用ヒ作用ハ種工_二作種_一之類是也。
並改訂以裨覽者。

一篇內原註書自註二字。馬場氏註證者。以按一字。
又有註鄙見者。書瓊按以別之。

一種法及真假之徵候。寂簡約易辨。初學之徒勿輕
忽看過矣。

一本編。議論精確。用心深切。無所不至。人一覽此。疑

惑冰釋。俾嬰兒無夭札之災。則幸甚。

一近聞白面之徒。妄傳痘苗。不知真假之確徵。不辨
種法之定規。往々有致誤謬者。故余附贅說於卷
末以示焉。

一今春崎嶼柴田氏來江都。一日語予曰。先是洋船
載牛痘苗到於崎嶼。凡三四回。種之嬰赤。絕無感
傳。某命在館和蘭人。兵部醫官門下見。屬洋船西
歸者。輸牛痘苗於我。邦嘉永二年己酉夏六月。

和蘭瘍科某者。復載牛痘苗到於崎嶼。其所載未痘苗。蓄藏法有三般。其一以象牙小簪沾痘漿。藏鷺毛筒內。以紅蠟密閉。復納硝子壘。又用紅蠟固封。其二取玻璃板二片。凹其正中。沾痘漿。合之。繡封四圍。復納硝子壘。其三痘靨藏鷺毛筒內。密閉。復納硝子壘。餘同。並貯於水中。昔日舶來。今日種之。柴田氏等。受術於門。屢見。試採三苗種三兒。不拘嬰。赤年。齡與左右手。或右或左。於近膊臂上。以

施六顆為程。而後經三日。不感傳。稍閱四日。一兒出一顆。則栽種痘靨者也。而其出一顆。其大足以栽種六兒。於是乎。傳種數百。延及三都。行天下。柴田氏及門。屢見之功。蓋大矣。傳之數十年之後。保全生靈于無疆。實蒼生之洪福也歟。乃予記所聞。贅述于此。云。瓊又識。

<p>牛痘全書</p>	<p>原序</p>	<p>一</p>	<p>牛痘全書</p>	<p>原序</p>	<p>一</p>	<p>牛痘全書</p>	<p>原序</p>	<p>一</p>	<p>牛痘全書</p>	<p>原序</p>	<p>一</p>
-------------	-----------	----------	-------------	-----------	----------	-------------	-----------	----------	-------------	-----------	----------

原序

抑人間ニ患ル萬病ノ中ニ於テ疫癘ヲ除ク片ハ痘瘡ノ外ニ多ク人ヲ惱マシ人ヲ殺ス病ハナシ。其人ヲ失亡スル及テ劇キ戰軍ヨリ甚シ。其故ハ戰場ノ人ヲ失亡スル唯其戰場ノミ。痘瘡ハ是ト異ニシテ。一國一州人民ノ居所徧ク此ニ至テ損害ヲ起ス。若シ今三十年ノ間ニ痘瘡ノ一病ニ由テ死亡シタル者獲生スルヲアラハ。其人數ノ夥

レキニ驚愕スヘシ。歐羅巴中ノ人民總テ凡十六億一千零零萬人アリ。此中毎歳此病ノ為ニ死スル者四十餘萬人ニ及フ。故ニ百年ニ積メハ是カ為ニ死スルモノ。唯歐羅巴ノミニテ一億一千万人ニ至ル。我魯西亞國ニ於ハ此病ニ罹ルモノ必ス死スルニ非サレズ。是カ為ニ命ヲ失フモノ舉テ數フ可カラズ。稀ニハ痘ヲ免ル者アリ。又命ヲ存スル者アリト雖也。動モスレハ是カ為ニ稟賦

ノ容色ヲ損シ。少年ノ微紅色ナルモノ青白ノ死色トナリ。眼レイト盲トナリ。耳レイト聾トナリ。或ハ痘終テ後其餘毒遲速アリト雖也一度ハ發シテ是カ為ニ惱サレルコトアリ。

痘瘡ノ創ヲ考フルニ。紀元六百年ノ頃

按スルニ推古天皇

庚申八年。隋ノ開皇二十年。瓊按スルニ歐羅巴ニ傳ルノ創ヲ謂フ。即チ我嘉永三庚戌ノ歳ヲ去ルコト見ユ。カムレヤツカ

瓊按スルニ魯西亞ノ地ニシテ。我奧蝦夷諸島ノ

地ト一衣帶水ヲ隔ルノミ。

ニ痘瘡入テ行ルヲハ。一千七百八

十八年

按スルニ天明八年戊申。瓊按スルニ嘉永三庚戌ノ歳ヲ去テ六十二年。以来

ナリ。此項猶痘毒ノ入ラサル所ハ「カエナ」按スルニ南亞

墨利加中「エレナ」按スルニ島ノ名所島及ヒ韃靼ノ島ノ名「エレナ」在末タ詳ナラス

ノ中ニテモ彼此ニ在リ。此外ニモ痘瘡絶テ入ラ

サル所アリ。是ニ由テ考ルニ痘瘡ハ自カラ人體

ニ具有シタル病ニアラス。ウツレ生テ後ニ傳染スルノ

病ナルヲ知ヘシ。平ノ痘瘡色ヤハチノ青白ノ

痘毒原ト何ノ國ヨリ創起シタルヤ詳ナラス。今

是ヲ探索シテ益ナシ。但シ是カ廣ク世ニ傳染セ

シ所以ハ。痘瘡ノ行ル國ノ産物ヲ國中ニ入ルカ

故ナリ。或人ノ説ニハ痘瘡ヲ空氣ヨリシテ傳フ

ルト云フ。是然ラス。元來痘瘡ノ流行スルハ。痘氣

一人ニ附着シ。此人又他人ニ傳フ。故ニ漸ク一般

ニ流行スルニ至ル。既ニ創起シテヨリ今ニ至マ

テ世ニ行ルハ皆是ニ因テナリ。

俗説ニハ每人必ス身體ニ具有シタル毒ナリ。天
 時アリテ是ヲ表發セシメ其毒ヲ除クト云フ。此
 説ノ然ラサル所以ハ前ニ辨スルカ如シ。愚俗斯
 ノ如キ誤察ノ謬説ヲ信ス。故ニ最初人痘ノ種法
 ヲ拒ミ。今又妙功アル牛痘ノ種法ヲ拒ミ謗ル者
 甚多シ。此愚昧ヨリシテ甚タ妨シモノナリ。
 天人民ヲ造レルヤ。焉ンソ其人民ヲ失亡セント
 シテ傳染流行病ヲ降サンヤ。問曰。痘瘡モ無類ヨ

リ起ル諸病ノ如ク起因有テ傳染スル病ナルヤ。
 答曰否ス。抑人間ノ出生スル病ヲ受ルカ為ナラ
 ス。凡ソ人ノ性ニハ智アリ。善アリ。精アリ。又欲ア
 リ。邪アリ。其質モ亦壯健長命スヘキ妙機ヲ具ヘ
 リ。然レ凡内外ヨリ是ヲ害スヘキヲヲナス。故ニ
 終ニ病ヲ生シ。或ハ天命ヲ全フスルヲ能サルノ
 變ヲ生ス。賢者ハ其害トナルヘキモノノ重キハ
 輕クシ。輕キハ退ルヲ勉ムヘシ。痘瘡ハ再ヒ患

ル病ニ非ス是レ體中ニ在ル所ノ之ニ感スヘキ
 モノヲ表發レテ悉ク脱去スルカ故ナリ。其證據
 ハ嘗テ人痘ヲ種エ。今ハ牛痘ヲ種テ其感スヘキ
 モノヲ去ル。故ニ自然流行ノ時ニ方テ之ヲ免ル。
 是レ許多ノ經驗ニ由テ明ニ知ル所ナリ。然レ凡
 何カ故ニ牛痘ノ流行痘ニ感スヘキモノヲ脱去
 スル能カラヲ具有スルヤ未タ解スヘカラス。當今
 千八百年按スルニ享和元年辛酉間マテニ漸ク人命救助ノ

法開ケタリト雖凡。此牛痘ヲ種テ自然痘ヲ防ク
 法ノ如キ的實百中ノ妙法ハ更ニナシ。其種法最
 モ容易ニシテ痛ヲナスコトナク。且唯其種タル處
 ノミニ發シテ顔面ノ醜クナリ。或ハ健全ヲ失シ
 テ病身トナル等ノ恐ナク。固ヨリ醫藥ノ助ヲ借
 ラスレテ自然ニ快復シ。今日ニ至マテ一人モ死
 シタル者ナシ。即チ今ハ皆是ニ由テ恐ヘキ自然
 流行痘ヲ免ルコトヲ得ル。

右ニ辨示スル牛痘ノ莫太有益ナルヲ會得セ
 ハ。此法ヲ誹ルヲ止テ此名譽ノ妙術ヲ信用シ。
 小兒アル者ハ恐レ怪ムヲナク此術ヲ施スヘシ。
 各其益ヲ得テ以テ天下ニ牛痘ヲ譏フヲ全ク
 止ンヲ希フノミ。不幸ノ人民等痘瘡ノ為ニ病
 身トナリ。或ハ不具トナリ。又天命ヲ全フスルヲ
 能サルモノ世ニ夥シ。故ニ我帝王官館ニ命シ。衆
 人ノ甚タ恐怖スル痘瘡ヲ免レ防クヘキ妙法ヲ

此一冊ニ記シテ版行セシメ。廣ク天下ニ示サシ
 ム。是レ國家人民ノ不幸ヲ減セントスル所以ナ
 リ。

--	--	--	--	--

魯西亞牛痘全書凡例

此編ハ魯西亞^{オロンヤ}ノ皇都^ベーテルスピル^クク瓊按スルニ今
ノ帝ノ醫學館ニ於テ紀元一千八百三年按スルニ日本
享和三帝王ノ命ニ因テ版行セル所ノ書ナリ。題
年癸亥名ヲ「スポップ。イスバールウ井レヤ。ソウエルセンノ
ヲツ。ヲス。ヘンノイ。サラゼト云フ。是ヲ譯スレハ
痘瘡ノ流行ヲ預防スル真法ト云フ義ナリ。故ニ
譯成テ後私ニ是ヲ遁花秘訣ト名ツク。今ヲ去

己二十八年

瓊按スルニ
享和年間

前。長崎ニ於テ甲必丹

ヘンテレキドーフ予ニ語テ曰。近頃入津ノ我和
蘭船持来ル所ノ風説書ヲ見ルニ。近来牛痘ヲ取
テ人ニ種ルニ其功人痘ニ勝ルヲアリト。予思フ
ニ遠カラスシテ其法ヲ記シタル書冊舶来アル
ヘシト。乃チ是ヲ待テ數年ナリ。己ニ文化五年戊
辰ノ春。予長崎ヲ出ル頃マテハ此書未タ来ラス。
今尚其書ノ舶来アルヲ聞カス。然ルニ予嘗テ文

化十年癸酉ノ春。命ヲ奉シテ松前ニ到リ。彼地ニ
在留スル魯西亞人ニ就テ彼邦語ヲ學フ。一日村
上某一小冊ヲ携テ魯西亞人ノ寓居ニ来リ。是ハ
松前ノ土民五郎治ト云フ者。オホーツカニ於テ
得タル所ノ書ニシテ。牛痘ヲ人ニ種ルノ法ヲ記
シタルモノナリト云フ。故ニ予掌ヲ打テ思フ。既
ニ數年前長崎ニ於テ傳ヘ聞レ事。今此遠隔ナル
松前ニ於テ復其事ヲ聞ク。レカノミナラス魯西

亞語ノ原書ヲ見ル_レ實ニ奇會歎喜ニ堪ヘス。忽
 チ是ヲ村上某ニ請テ旅館ニ携歸リ。騰寫速ニ終
 リ。日々是ヲ魯西亞人ノ寓居ニ携行テ。其文意ヲ
 モウル_ル 瓊按スルニ 問フ。然ルニ其頃ハ未タ三
 四個月ニ滿タサル淺學ナレハ。彼カ示ス所容易
 ニ理會セス故ニ其苦辛少カラス。然レ凡日ヲ積
 テ終ニ全編ノ大略ヲ解レ得タリ。其冬歸府シテ
 後。早速是ヲ譯セントセシカ。再ヒ考ルニ編中ノ

文意十ノ二三ハ理解セサル所アリ。強テ是ヲ譯
 ス片ハ必ス謬語多カルヘシ。日ヲ經テ少モ此語
 ニ熟シタル後ニ譯スル片ハ。其誤ル_レモ亦少カ
 ラント。是ニ於テ是ヲ其儘ニ捨置シ_テ既ニ六年。
 茲ニ文政元年戊寅ノ夏。相州浦賀ニ アンケリヤ 諳厄利亞 瓊
 スルニ 乃イ ノ高舶米_レ時。予復命ヲ奉シテ彼ノ
 キリス國 ノ 高舶米_レ時。予復命ヲ奉シテ彼ノ
 船ニ到リ其始終ヲ深查セリ。其時船主小冊子ト
 硝子壘及ヒ一片ノ硝子盤トヲ携出テ曰。 卷尾ニ
 此圖ヲ

附ス。瓊按スルニ
 本書此圖ヲ闕ク。此硝子壘ニ納リタルハ牛痘ノ
 痂ナリ。硝子盤ハ此痂ヲスリオロス器ナリ。又此
 一冊ハ牛痘ノ種法ヲ記シタル書ナリ。吾外ニ土
 産ナシ是ヲ君ニ與ヘント。外ニ紙ニ包タル一塊
ヨシ。此外ニ豕野牛アリ。何 予辭シテ受サリキ。後
レモ予ニ與ヘント云フ。 熟考スルニ。最初長崎ニ於テ和蘭人ヨリ其説ヲ
 聞キ。後松前ニ於テ魯西亞人ヨリ其書ヲ得。今又
 相州浦賀ニ於テ諳厄利亞人其書ト痂トヲ與ヘ

ント云フ。其事ヲ見聞スルノ既ニ三次ニ及フ。實
 ニ奇ト謂フヘシ。是ニ於テ復譯稿ヲ起シ即チ今
 始テ稿成ル。是ヨリ前ニ魯西亞ノ原書ヲ譯セシ
 者ナシ。予ヲ以テ始トナス。故ニ誤解謬譯固ヨリ
 多カルヘシ。後ノ君子宜ク訂正セシトヲ希フノ
 ミ。

時文政三年庚辰秋 長崎譯官馬場貞由識

牛痘漿ヲ貯ル法

牛痘功ヲ奏シテ發スル諸症ノ順次

牛痘ヲ種テ發シタル痘ノ真假ヲ見分ツ法

魯西亞牛痘全書目次

魯西亞牛痘全書卷之上

長崎 譯官馬場貞由 譯

三河 仙庵利光瓊大玖 校

牛痘ノ裨益及ヒ秀勝ノ辨

牛痘ヲ種エ試タル所ハ。就中諸厄利亞熱爾瑪泥

亞^ヤ拂郎察^フ及ヒ我魯西亞等ノ諸國ニ於テ多ク試

タリ。是ヲ試ム毎ニ自然流行痘ノ傳染ヲ防ク。

人痘ヲ種タルモノニ異ナラス。

自然流行痘ト人痘ヲ種テ發シタル者トヲ比較スレハ種テ發シタル者ハ諸症甚々輕ク死スルモノ固ヨリ少キヲ莫太ノ相違ナリ。然レ凡間マ危險ノ症ヲ發シ。或ハ痘後病身トナリ。或ハ天稟ノ美色ヲ失スルヲアルハ免ルヲ能サル所ナリ。又痘瘡表發セントシテ搖擲シ。或ハ其痂ヲ抓テ寒熱ノ往来ヲ發シ。又傳染スヘキ惡臭ノ蒸氣ヲ發シ。呼吸塞迫シテ眠ルヲ能サル等ノ症ヲ發ス

ルヲアリ。是ニ於テ其雙親心ヲ痛マシムルヲ舉テ謂フ可カラス。斯ノ如キ惡症ヲ發スル片ハ種痘シタルヲ後悔シ。自己ノ罪ナリトシテ心ヲ苦ムルヲ少カラス。又最モ善性ノ痘ヲ發シ。其數モ少ク十分起張シタルモノモ。此時ニ臨テ伏病發ルカ。或ハ隙風ニ中ルヲ以テ俄ニ内陷シテ劇シク搖擲ヲ發シ。終ニ其命ヲ失フヲアリ。最モ善性痘ト雖凡變アル片ハ斯ノ如シ。又其餘毒ニ因

テ肺臟焮腫ヲ發シ。或ハ喘息ヲ發シ圖ラサル頃
 ニ頓死スルコトアリ。又治療怠ルコトナシト雖凡一
 千人ニ種痘スレハ死亡スル者五人アリ。又二千
 人種テ其中難痘ヲ發スル者必ス一人アリ。又十
 萬人種痘スレハ必ス死亡スル者五百人アリ。或
 ハ難痘ヲ發シ。或ハ其餘毒ニ腦サレルモノ五千
 人アリ。若シ此治ヲ輕卒ニ施シ。或ハ未熟ノ醫ニ
 託シ。或ハ他ノ流行病ノ行ル時ニ施シ。或ハ發出

セントスル時ニ適當ノ法ヲ施ササレハ死亡ノ
 者尚多シ。按スルニ以上皆人痘
 ヲ種テノ損害ヲ論ス時トシテハ斯ノ
 如ク危険ノ症ヲ發スト雖凡。猶種痘ニ因テ人命
 ヲ救レコト。自然流行痘ニ比較スレハ其數ヲ知ラ
 ス。然ルニ今ハ其人痘ヲ種ルヨリハ牛痘ノ遠ク
 勝ルコトヲ發明セリ。既ニ台命ニ因テ其功ヲ實驗
 シ。且我輩親ク試ミ用ヒテ其實事ヲ定メ得タリ。
 是ヲ種エ試ルニ徹ク寒熱往來ヲ發ルノ外。更ニ

餘症ヲ發スルヲナク。平常ニ殆ト異ナルヲナシ。
 人痘ヲ種エ發シタルモノトハ雲泥ノ差ニテ絶
 テ比較スヘキモノニ非ス。又試ルニ牛痘ヲ種タ
 ルモノニ於テハ人痘ヲ種テ發ルカ如キ諸症ヲ
 發シタルモノ一人モナク。此他危險ノ症ヲ見シ
 タルヲ絶テナシ。尤時ニ因テハ小疹ノ如キモノ
 ヲ發スルヲアレバ。少モ元氣ノ障防スルヲナク。
 又表皮ニ變ヲ

瓊按スルニ痘痕ヲ謂カ

遺スルヲ絶テナシ。

人痘ヲ種レハ其餘毒ノ為ニ頓死スル者アリ。或
 ハ其餘毒ニ因テ腐骨疽ヲ發シ。或ハ癆瘵ヲ患ル
 者アリ。牛痘ヲ種テハ余毒少モ遺ルヲナク。此等
 ノ病ヲ發ルノ患ナシ。
 虚弱ノ小兒。或ハ病身ノ小兒ニ人痘ヲ種ル片ハ
 殊ニ速ニ快復セス。是ニ牛痘ヲ種テ許多試ルニ
 虚弱病身ノ兒反テ壯健ニナリ。又牛痘ニ因テ發
 スル少ノ寒熱ニ由テ。元來體中ニ存在シタル病

毛自カラ退治レ。再ヒ其病ヲ患ルコトナシ。
 孕婦。或ハ小兒齒ヲ生スル危キ頃ト雖モ是ヲ試
 ルニ妨ナシ。發出スルモ平常ノ人ニ異ナルコトナ
 シ。愚昧ノ徒云ク。牛痘ハ禽獸ニ種ユヘシ。人ニ種
 ヲヘキノ理ナシト。是等ハ牛痘ヲ種エ發シタル
 其小兒ノ痘漿ヲ取テ種エ。直ニ牛ヨリ移シ種ユ
 ヘカラス。其功異ナルコトナシ。
 牛痘ヲ種ルニ年月ヲ撰ムコトナシ。假令麻疹。其他

流行病ノ世ニ行ル時ト雖モ害ナシ。如何トナレ
 ハ親ク經驗スルニ。是ヲ種テ他病傳染スルキハ。
 其傳染病ノ治スルマテハ痘ヲ發スルコトナシ。或
 ハ痘發シテ治スルマテハ他ノ傳染病發スルコ
 トナシ。故ニ時ヲ撰マス四時共ニ種テ害ナシ。
 種痘シテ其發生スル順次ハ。天氣時候ニ因テ異
 ナルコトナシ。嚴寒酷暑ノ時ト雖モ同シ。即チ歐羅
 巴^パ亞^ア細^ジ亞^ヤ墨^メ利^リ加^カ等ニ於テ試ルニ。毎ニ同シク

少モ彼ト此ト異ナルヲ見ス。

人痘ヲ種テ能ク自然流行痘ヲ免ルト雖凡一人ノ種痘ヨリシテ又能ク世ニ痘瘡ヲ流行セシムルニ至ル。故ニ又多クノ人命ヲ損ス。牛痘ヲ種ルニ於テハ絶テ此患ナシ。是レ牛痘ノ人痘ニ勝ルノ一ナリ。既ニ諳厄利亞國ニ於テ割テ人痘ノ種法ヲ發明セシヨリ。其死亡スルモノ及テ多シ。是レ痘瘡流行ノ世ニ絶サルカ故ナリ。即チ種痘法ノ

世ニ行レサル前ト。此法ノ始リテ後トヲ比較スルニ。一千人ノ内ニ死亡ノモノ十七人多シ。又種痘法ノ始リテ以来ノ四十二年ノ間ト。其以前ノ四十一年ノ間トヲ比較スルニ。種痘法行レテ後ニ死スルモノ。其行レサル前ヨリハ二萬四千人多シ。是レ一人痘ヲ種テ其氣ヲ萬人ニ及ホシ。世ニ流行ノ絶サル故ナリ。

今既ニ牛痘ヲ種ユルニ至テハ。斯ノ如キ嘆息ス

へキノ患ハ絶テナシ。且種法最モ容易ニシテ。自然流行ヲ防クニ於テ人痘ニ異ナルヲナシ。又群居ノ一人ニ種テ他人ニ傳染スルノ恐モ絶テナシ。

痘瘡ニ劣ラス多ク人命ヲ損スル諸病アリ。今牛痘ヲ種テ痘瘡ヲ防ク如ク。若シ此諸病ヲ防クノ法ヲ發明スルヲアラハ。天下ノ幸之ニ過クヘカラス。

一術ヲ發明シテ是ヲ人ニ示シ。人は用信スル所ハ。其術ヲ發明シタル人ノ勞苦ヲ思フヘシ。既ニ人痘ヲ種ルヲ發明シテ。自然流行痘ヲ防キ免レシムルノ功莫太ナリ。然レモ人痘ヲ種テ稀ニ難痘ヲ發シ。或ハ難澁スヘキ餘症ヲ發シ。危篤ニ及フモノアリ。此等ハ曾テ免ルニ術ナキトト思ヒ定メタリ。然ルニ今牛痘ヲ種ルヲ發明シテヨリ此等ノ患モ絶テナシ。故ニ今人痘ヲ種ル

一ヲ禁制シテ。赤子ニ牛痘ヲ種ルルハ。年久シク
幾千萬ノ人ヲ害シタル自然流行痘。自カラ天下
ニ絶ル一必セリ。實ニ牛痘ノ妙豈言語ニ盡サン
ヤ。

此新法ヲ以テ痘氣ヲ世ニ流行セシムル一ナク。
又其氣ニ感スル一ナシ。素ヨリ牛痘ノ氣人ニ害
アル一少モナシ。是ヲ種ルニ至テハ一二年ノ中
ニ痘瘡必ス天下ニ絶スルニ至ラン。此レ志アル

醫家。及ヒ人ヲ救フノ仁心アル人ハ。悦ヒ用ヒス
ンハアル可カラス。今吾徒ニ此事ヲ述ルニ非ス。
實ニ此法ヲ弘ク世ニ行シメント欲ス。是又能サ
ルニアラス。又人ノ思フヨリハ甚タ行ヒ易シ。即
チ此兩都府。按スルニモスコウベ一テルスビル
西亞ノ舊都府。一ベ一テルス及ヒ此他ノ府内ニ住
ビルクハ今ノ帝府ナリ。スル醫家心ヲ合セ此法ヲ用ユヘシ。郡縣ニテハ
土醫村落ニテハ寺僧是ヲ施スヘシ。又其土地ノ

有司等。及ヒ産婆ノ類ニ此法ヲ教諭シテ施ス片
 ハ。速ニ偏ク行レテ其他痘瘡瓊按スルニ自ノ絶
 ルヲ必セリ。是レ何ソ難キヲアラニヤ。又僧侶人
 ヲ教ルニハ。此法ノ容易ニシテ妙功アルヲ併
 セ説クヘシ。僧ハ固ヨリ其檀下ノ人ノ壯健ヲ希
 ハスニハアル可カラサル者ナリ。斯ノ如ク僧官
 ノ方ヨリ是ヲ弘メ。又文官ノ方ヨリモ是ヲ施シ
 與フル片ハ實ニ幾千萬人ノ命ヲ助ル豈莫太ノ

トナラスヤ。

魯西亞牛痘全書卷之上終

牛痘全書

卷六十一

自然本亦

--	--	--	--	--

